

資料Ⅲ－４ 高知県の漁海況に関する特異現象のリスト

- ・本項は毎年7月と12月に開催される太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議の海況部門において高知県が情報提供し、年2回発行されている高知県長期漁海況予報にも掲載されている漁海況に関する特異現象を収録したものです。
- ・内容は主に海の高低水温や重要魚種の好不漁に関するものです。
- ・これら特異現象はその時々で話題になりますが、その後、資料として残っていないのが実情です。そこで、平成16年以降の項目を転載しました。

平成16年1月～6月

海況

- ・6月の土佐湾平均水温において、50、100mは過去最高水温、0mは過去2番目、200mは過去3番目の高水温（1975年以降、欠測年あり。）。

漁況

- ・特別採捕許可によるモジャコ漁の不漁（4～5月）
- ・5～6月足摺周辺マルソウダ（メジカ）曳縄漁の不漁（5月は過去15カ年間で最低の水揚量）
- ・5～6月土佐湾沖の竿釣船によるカツオが好漁（平成4～15年の月平均水揚数量の5月は2.5倍、6月は4.3倍）

平成16年7月～12月

海況

- ・8月の土佐湾平均水温において、50mは過去3番目、100mは過去4番目の高水温（1975年以降、欠測年あり）。

漁況

- ・足摺岬周辺のゴマサバ漁場では、7月下旬～8月に水揚げされたゴマサバの体長組成が小型魚に偏り、40cm以上の大型個体が減少しました。これは、立縄漁場に0歳魚（尾叉長21～27cm）が大量に来遊し、大型魚の漁獲を妨げたためです。
芸東（室戸岬周辺）海域の大型定置網でも8月に200g以下の0才魚が大量に入網しました。このようなゴマサバ小型魚の大量来遊は1999年以來のことで、両岬周辺海域で目立ちました。また、足摺岬沖合では、漁業者は小型魚を避けて沖合の漁場で操業したため、7、8月の漁獲量が減少しました。
- ・上半期から引き続き、メジカが不漁（7～10月の漁獲量が1986年以降最低）で推移しました。
- ・県下全域でタチウオが好漁でした。この傾向は紀伊水道、豊後水道域でも同様です。

平成17年1月～6月

海況

- ・6月の土佐湾平均水温において、100、200mは過去最低水温、50mは過去3番目の低水温でした（1975年以降、欠測年あり。）。

漁況

- ・1月、足摺岬沖のマルソウダ（メジカ）曳縄漁が好漁でした。
- ・3～4月にシラス（主にマイワシシラス）が好漁でした。
- ・4～5月に土佐湾中央部におけるカツオ曳き縄漁が不漁でした。
- ・4～5月にヨコワが好漁でした。
- ・5、6月に芸東海域（室戸岬周辺）定置網にゴマサバ当歳魚が大量入網しました。

平成17年7月～12月

海況

- ・土佐湾平均水温（1975年以降、欠測年あり）において、10月の0mは過去最高水温、7月の50m、100m、8月の100mは過去2番目の低水温、11月の200mは過去最低水温を記録しました。

漁況

- ・7月下旬から、エチゼンクラゲが室戸、足摺両岬周辺の定置網に入網しました。その後、土佐湾内のシラスパッチ網にも入網しました。
- ・シラス漁は、下半期としては平年並みの漁獲で前年を上回ったものの、11月に不漁となりました（11月の平年比約20%）。
- ・室戸岬周辺のキンメダイが10、11月に不漁でした。
- ・夏期に5kg級のヨコワが足摺岬周辺の定置網に入網しました。
- ・宿毛湾の中型まき網漁で、7月、10月のウルメイワシの水揚げ量が1983年以降の最高値を記録しました。

平成18年1月～6月

漁況

- ・県西部の釣りブリが不漁でした。
- ・1～2月、土佐湾におけるシラス漁が不漁でした（1～2月平年比33%）。
- ・1～3月、宿毛湾における中型まき網でマイワシが好漁でした（1～3月平年比159%）。
- ・4～5月、モジャコが不漁でした。
- ・4～6月、宿毛湾における中型まき網でウルメイワシが好漁でした（4～6月平年比276%）。
- ・5～6月、宿毛湾における中型まき網でキビナゴが好漁でした（5～6月平年比183%）。
- ・5～6月、宿毛湾における中型まき網でサバ類が好漁でした（5～6月平年比201%）。
- ・5～6月、土佐湾西部のシイラ漬まき網漁が不漁でした。

平成18年7月～12月

海況

- ・沿岸定線観測で、10月の50、100mは過去3番目の高水温となりました（1975年以降、欠測年有り）。
- ・沿岸定線観測で、11月の0、50、100mは過去最高水温、200mは過去2番目の低水温を記録しました（1975年以降）。

漁況

- ・10、11月、宿毛湾における中型まき網でマイワシが好漁でした。10月は平年比1033%、11月は平年比583%に達しました。
- ・10月以降、県西部の定置網でブリ当才魚（ヤズ）が不漁でした。
- ・11月、土佐湾中央部の多鈎釣でウルメイワシが不漁でした（11月平年比2%）。
- ・11月、県西部の曳き縄でマルソウダが不漁でした（11月平年比26%）。

平成19年1月～6月

漁況

- ・1～2月、足摺岬周辺のひき縄によるマルソウダ（メジカ）が不漁でした（平年比2%）。
- ・1月、宿毛湾における中型まき網でマイワシが好漁でした（平年比494%）。
- ・2～3月、土佐湾でシラスが好漁でした（平年比311%）。
- ・4～6月、足摺岬周辺のひき縄によるマルソウダ（メジカ）漁が持ち直しました（平年比176%）。
- ・5月～、足摺岬周辺の立縄によるゴマサバが不漁でした（平年比38%）。
- ・3～5月、土佐湾におけるひき縄によるカツオが不漁でした（平年比15%）。
- ・4月、宿毛湾における中型まき網によるウルメイワシが好漁でした（平年比451%）。

平成19年7月～12月

海況

- ・沿岸定線観測で、9月の0m層は過去2番目の高水温、10月の0m層は過去最高水温となりました（1975年以降、欠測年有り）。

漁況

- ・8～11月、足摺岬周辺のゴマサバ漁が不漁（平年比34%）
- ・8～11月、宿毛湾における中型まき網でマイワシが好漁（平年比2,671%）
- ・8～11月、土佐湾内でのシラス漁が不漁（平年比12%）

平成20年1月～6月

海況

- ・沿岸定線観測において、4月の200m層が過去6番目の低水温、5月の200m層が過去5番目の低水温であった。また、1月の100m層が過去2番目の高水温、2月の100m層が過去2番目の高水温、3月の50m層が過去4番目の高水温であった（1975年以降、欠測年あり）。

漁況

- ・1～2月、土佐湾でシラスが不漁（平年比3.3%）
- ・1月及び6月、足摺岬周辺の立縄によるゴマサバが不漁（1月：平年比17.8%、6月：平年比19.9%、両月とも同時期過去最低（1987～））
- ・2～3月、土佐湾東部に位置する加領郷の多鉤釣によるゴマサバが好漁（2月：平年比463.2%、3月：平年比367.5%）
- ・1月、宿毛湾における中型まき網によるマイワシが好漁（平年比1346.1%）
- ・3月、宿毛湾における中型まき網によるマアジが好漁（平年比440.4%）
- ・4月、宿毛湾における中型まき網によるウルメイワシが好漁（平年比548.5%、同時期過去最高（1983～））

平成20年7月～12月

海況

- ・沿岸定線観測において、10月の100m層が過去2番目の低水温となりました（1975年以降、欠測年あり）。

漁況

- ・土佐湾内でのシラス漁が不漁（平年比41.6%）
- ・宿毛湾における中型まき網でカタクチイワシが不漁（平年比25.9%）
- ・足摺岬沖におけるゴマサバ立縄漁が不漁（平年比39.0%）
- ・宇佐のウルメ多鉤釣が不漁（平年比12.3%）
- ・宿毛湾における中型まき網でマイワシが豊漁（平年比468.4%）
- ・宿毛湾における中型まき網でウルメイワシが豊漁（平年比308.2%）

平成21年1月～6月

海況

- ・沿岸定線観測において、4月の100m層及び200m層の水温が過去3番目の低水温となりました（1975年以降、欠測年あり）。

漁況

- ・カツオ曳縄漁が著しく不漁
- ・浦ノ内湾内でのアサリ漁が不振
- ・機船船曳網漁に混入するアカクラゲの被害報告が数多く寄せられました。
- ・2月に9キロ級のブリが定置で好漁。来遊時期の遅れが指摘される近年では珍しい寒ブリの好漁となりました。

平成21年7月～12月

海況

- ・沿岸定線観測において、7月の200m層の水温が過去最低の低水温を記録、また、9月の50m層の水温が過去4番目の高水温を記録した（1975年以降、欠測年あり）。
- ・秋季に県東部の田野、安田、羽根の各大型定置で渦を巻くほど潮（下がり潮）が速く、網入れができない等の情報が寄せられた。

漁況

- ・佐喜浜の大型定置でメジロ8,000本（8月末の1日のみの漁獲）。8月上旬にはブリ銘柄が数百本単位で2日間入網。
- ・10月に宿毛の中型まき網でウルメイワシ好漁（平年比754%）
- ・11月末に県東部の椎名、三津、高岡の大型定置に傘径40cm程度の大型クラゲが少数ながら入網した。

平成22年1月～6月

海況

- ・定地観測において、伊佐の6月の表面水温が過去最低の水温を記録した（1966年以降）。

漁況

- ・県東部の大型定置網におけるブリ（7kg級）が前年に引き続き、好漁であった（平年比582%）。
- ・カタクチイワシが好漁。宿毛湾の中型まき網（平年比259%）、県東部の大型定置網（平年比866%）。
- ・マアジが不漁。宿毛湾の中型まき網（平年比28%）、県東部の大型定置網（平年比12%）。
- ・機船船びき網によるシラス漁が好漁（平年比147%）。
- ・土佐清水の立縄漁でマサバ好漁（平年比737%）。

平成22年7月～12月

海況

- ・沿岸定線観測において、11月の100m層の水温が過去5番目の高水温を記録した（1975年以降、欠測年あり）。

漁況

- ・9月、沖合底びき網で、この時期に100m深より浅い海域に生息するチダイが200m深で多獲された。

平成23年1月～6月

海況

- ・沿岸定線観測において、12月の100m層の水温が過去3番目の高水温を記録しました。また、5月の200m層の水温が過去2番目の低水温を記録しました。（1975年以降、欠測年あり）

漁況

- ・シラスウナギ漁が不漁
- ・室戸岬東側海域の大型定置網でメガマウス（4～5m級）が相次いで入網（椎名大敷に3/14に1尾、三津大敷に5月初めに1尾）。
- ・足摺岬東側海域の大型定置網でマサバ好漁（前年比1,263%）

平成23年7月～12月

海況

- ・沿岸定線観測において、9月の50m層、100m層、200m層の水温が過去2番目の高水温を記録しました。また、11月の100m層の水温が過去最高の水温を記録しました。（1975年以降、欠測年あり）

漁況

- ・宿毛湾の中型まき網でウルメイワシ好漁（平年比292%）

- ・ゴマサバ釣り不漁（平年比37%）
- ・10月のヨコワ曳縄漁が好漁

平成24年1月～6月

海況

- ・3月末から4月中旬にかけて高知県沿岸域でヌタ（粘質状浮遊物：*Thalassiosira*属の珪藻が主体）が大量発生し、定置網や機船船曳網の網目がつまる、曳縄漁具に絡むなど操業に支障が出ました。定線海洋観測のプランクトンネットも目づまりし、卵稚仔サンプリングに支障をきたしました。各県の報告から*Thalassiosira*属の珪藻の出現は、鹿児島県～静岡県太平洋側の沿岸域で一様に確認されています。

漁況

- ・宿毛湾の中型まき網で6月にマイワシ（2012年級群）が311 tの好漁となりました。6月としては、1984年以降で最高値です。
- ・2～4月に県東部定置網、足摺岬沖釣（立縄）で、マサバが好漁でした。県東部定置網では135t、平年比1410%（過去19年で最高値）、足摺岬沖釣では、43.4 t、平年比756%（過去20年で最高値）でした。
- ・土佐清水及び下ノ加江において、1月～6月のマルソウダ（めじか）曳縄漁が過去20年間で2番目の不漁でした。一方、5～6月には、徳島県、和歌山県、三重県、静岡県の定置網でマルソウダが好漁でした。

平成24年7月～12月

海況

- ・7月、8月における土佐湾の水深20m～70m層の水温は、「かなり高め」～「著しく高め」でした。7月の30m、50m層は、1981年以降（以下、同じ）では、2番目の高水温を記録しました。8月の20m層は最高値（+2.65℃）、30m層は2番目（+3.21℃）、50m層は3番目（+3.14℃）の高水温でした。
- ・7月、8月の土佐湾の塩分も水深10m～75m層で著しく低い値となりました。7月は10m～75m層でいずれも最低値を、8月は30m、50m層で同じく最低値をそれぞれ記録しました。10月も0m～50m層で著しい低塩分となり、30m、50m層で最低値を記録しました。

漁況

- ・ゴマサバ漁獲量は、土佐清水の立縄では32.6トン（8～10月計）で、平年比13.6%、前年比33.1%、室戸の立縄・多鉤釣では、10.3トン（8～10月計）で、平年比32.9%、前年比49.4%ときわめて不漁でした。
- ・宿毛湾の中型まき網漁業で、カタクチイワシが好漁。8～11月の漁獲量は、1,512トンで平年比1,035%でした。
- ・10月から始まったヨコワ曳縄漁の水揚げは、0.1トンで、前年同期（9.5トン）の1%と不漁でした。7～8月の養殖用種苗採捕数も前年比38%と低調でした。

平成25年1月～6月

海況

- ・「ヌタ」状植物プランクトン：5月上旬から1週間程、本県東部に *Thalassiosira* 属の珪藻が大量に漂着、定置網の網目が詰まる等、操業に支障がありました。昨年も3月末～4月中旬にかけて今回と同じ種と思われる植物プランクトンが本県沿岸に大量漂着し、定置網や機船船曳網等の操業に支障がありました。

漁況

- ・シラス不漁（3月～4月）：今年3月のシラス漁は30トンで、過去20年間で1999年に次ぐ2番目の不漁でした。4月は70トンで、4番目の不漁でした。
- ・メジカ曳縄漁の不漁：今年4月のメジカ曳縄漁の水揚げ量は131トンで、過去20年間で3番目

の不漁でした。出漁隻数は2番目の少なさでした。なお、今年前半(1月～6月)のメジカ曳縄漁は3,002トンで、過去20年間で最低の水揚量でした。出漁隻数は3番目の少なさでした。

平成25年7月～12月

海況

- ・高知県沿岸の定地水温で11月の田野浦は著しく低めとなり、1965年以降の観測史上、2002年に次ぐ低水温でした。

漁況

- ・7月～8月にかけて、芸東地区にある大型定置網に、サケガシラやリュウグウノツカイ等の深海魚4種81個体が入網しました。
- ・10月末、芸東地区にある大型定置網4地区で急潮による甚大な被害が発生しました。
- ・足摺岬周辺のメジカ(マルソウダ)曳縄漁は、水揚量は平年(2002年～2011年)比45.8%、隻数は平年比48.6%でした。

平成26年1月～6月

海況

- ・低水温の出現：平成25年12月の土佐湾はきわめて低温でした。観測層別では0～125mまでは昭和50年の観測開始以降最低値を更新。150m、175m及び200mは、それぞれ昭和50年以降ではそれぞれ2番目、3番目及び6番目の低水温でした。

漁況

- ・カツオ不漁：上半期(1～6月)の高知県沖合のカツオ漁業は、曳縄漁は、平年(平成6年～平成25年)比で約8%、1～6月におけるカツオ沿岸竿釣(20t未満)漁は、同じく平年比で約30%といずれも同期では最低の水揚でした。
- ・マサバ好漁：土佐清水における立縄漁の上半期マサバ漁獲量は60.6トン(前年比163%、平年比505%)で、低水準となった過去20年間(平成6年～平成25年)で最も多くなりました。
- ・ゴマサバの漁期早まる：室戸岬周辺の大型定置網に入網したゴマサバは平成25年12月～平成26年1月に多く、通常の盛漁期である2～3月よりも早くなりました。椎名大型定置網での漁獲量は12月～1月に449トン(前年比346%、統計のある平成9年以降の平年比で1600%)、2～3月に63トン(前年比21%、平成9年以降で92%)でした。

平成26年7月～12月

海況

- ・8月の土佐湾内0m塩分は、降雨の影響を受けて31.480で、昭和50年以降では、平成11年、平成5年に次ぐ3番目の低さでした。

漁況

- ・養殖用種苗として採捕されている7、8月のヨコワ(クロマグロ幼魚)の採捕尾数は、平成16年以降、平成24年に次いで少なく、過去10年間の平均値の16%でした。

平成27年1月～6月

漁況

- ・シラス好漁：土佐湾沿岸におけるシラスパッチ網漁の上半期(1～6月)漁獲が741トン(前年比204%、平年比109%)でした。
- ・マイワシ好漁：宿毛湾の中型まき網での上半期漁獲量は2,292トン(前年比332%、平年比405%)で、過去10年間(2004～2013年)で最高でした。
- ・ゴマサバ不漁：土佐清水における立縄漁の上半期水揚量は89.7トン(前年比62.8%、平年比22.8%)で、1987年以降、最低の水揚でした。
- ・カツオ不漁：上半期の高知県沖合のカツオ曳縄漁は昨年同期(24.9t)より少ない20.7tで、平年比の約14.3%となり、過去10年間で最低の水揚でした。
- ・ブリ好漁：上半期の高知県沿岸の定置網漁業で、ブリが好漁でした。6kg以上のブリ銘柄の上半期水揚本数は、27.4万本(前年比334%、平年比232%)で、過去10年で最高の

水揚でした。また、メジロ銘柄（3～5kg級）の水揚本数を合わせると、35.7万本（前年比174%、平年比180%）となり、こちらも過去10年で最高の水揚でした。

平成27年7月～12月

海況

- ・8月8～9日（推定）に室戸岬東岸において大規模な急潮が発生し、室戸岬近くの定置網2か統で被害がありました。うち1か統の被害は甚大でした。
- ・12月10～11日、県東部の定置網で破網等の被害がありました。特に東洋町の定置網で被害が甚大でした。原因は、発達した低気圧の通過による強風、高波によるものと思われました。

漁況

- ・シラス好漁：県内の主要4漁協における1～12月までのシラス水揚量は1,334トンで、前年比167%、平年比153%（平成16～25年）となり、過去10年間（平成17～26年）で最高でした。
- ・マイワシ好漁：宿毛湾の中型まき網での7～11月の水揚量は2,760トンで、前年比2,914%、平年比339%となり、過去10年間（平成17～26年）では、平成19年（4,376トン）に次いで2番目でした。
- ・ゴマサバ不漁：土佐清水における立縄漁の7～11月の水揚量は70.8トンで、前年比63.9%、平年比27.1%となり、昭和62年以降最低でした。
- ・カツオ不漁：高知県沿岸カツオ曳縄漁の7～11月の県内7市場における水揚量は昨年同期（22.3トン）より少ない2.1トンで、前年比約9.4%となり、平成6年以降最低でした。

平成28年1月～6月

海況

- ・土佐湾における1、2月の高水温：エルニーニョ現象の影響により1、2月の土佐湾の表層水温は「かなり高め」で推移しました。過去30年において、1月は19.8℃で1993年の20.5℃以来二番目に高く、2月は19.0℃で過去最高でした。

漁況

- ・モジャコ（ブリ稚魚）が好漁：3月のモジャコ調査では、採集された藻への平均付着尾数が44尾で、前年（4尾）及び平年（17尾）を大きく上回り過去10年で最多でした。県内の多くの漁業者が3月29日の解禁直後に計画尾数を確保した模様です。
- ・宿毛湾の中型まき網でマイワシ好漁：平成27年の年間水揚量は5,664tで、昭和59年以降、平成19年の7,914t、昭和59年の6,936tに次いで3番目に多く漁獲されました。
- ・宿毛湾の中型まき網でウルメイワシ好漁：平成27年の年間水揚量は5,035tで、昭和59年以降、平成23年の5,044tに次いで3番目に多く漁獲されました。
- ・さば類不漁：高知県下8水揚市場におけるさば類の上半期水揚量は856トン（前年比56.4%、平年比30.7%）で、1987年以降、最低でした。
- ・芸東定置でマルソウダ新仔の来遊：6月23日からマルソウダの新仔（尾叉長10～13cm）が、室戸岬東岸の大敷網で獲れ始めました。例年、7月初旬～下旬に獲れ始めますが、今年は2週間～1か月早い来遊となりました。
- ・ヨコ仔（クロマグロ稚魚）漁の開始：6月27日から高知県内各地で養殖種苗用のヨコ仔漁が始まりました。例年は、7月10日前後から漁が始まりますが、今年は約2週間早く始まりました。
- ・定置網にカツオ入網：6月末から8月下旬にかけて、足摺岬及び室戸岬周辺の定置網に2キロ前後のカツオが断続的に入網しました。

平成28年7月～12月

海況

- ・8月の沿岸定地水温（月平均）は28.8～30.7度で、平年と比べ1.2～1.7度高く、定点7点のうち5定点で観測開始（1972年）以降最高を記録しました。

漁況

- ・7～11月の土佐湾東部（加領郷港）におけるスルメイカの水揚量は4.1tで、1989年以降最低でした（平年比5%、前年比8%）。